



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

新年号

2021

発行所 真宗大谷派 旭川別院

輪 番 太 田 法 生

〒070-0030 旭川市宮下2丁目

TEL.0166-22-2409

FAX.0166-22-2411

■印刷：植平印刷株式会社

■旭川別院ホームページ

<http://potato9.hokkai.net/~betsuin/>

真宗大谷派旭川別院 | 検 索

新年挨拶



真宗大谷派 旭川別院 輪番

太田 法 生

新年を迎え皆様には益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。

日頃より当旭川別院に、ご門徒の皆様、崇敬寺院の皆様には、ひとかたならぬご協力と、ご支援を賜っておりますこと、誠に深く感謝申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの感染症拡大で、非常事態宣言が発令、外出自粛が要請され、道外・管外への移動に、制約を余儀なくされたことであります。旭川別院では月忌のお参りを自粛させていただいたり、報恩講の日程や内容も、大幅に変更させていただきながらの厳修でした。特に密閉、密集、密接の三密を避けるために、別院の行事や諸研修会の中止、法要仏事の形式が制限され、縮小化せざるをえない苦渋の一年でありました。早く終息を願うことですが、もうしばらくはこのウィルスとの感染状況に付き合ひながら、以前の日常に戻る為、その時のエネルギーが発揮できるよう、本年も職員一同、益々努力精進いたしたいと存じます。

人々にとって紛争防止の観点から評価されていることは、大きな意義があったことなのである。

WFPのスタッフは、世界最大の人道機関であり、一万七千人の規模で、各国からの自発的な拠出と寄付によって運営し、テロや強奪などの危険と隣り合わせのなか、ただ食料輸送集団として活躍されているのである。

WFPはこれらの最前線の地域まで足を運び、人々が食料を口に入れるところまでを見届けて、喜ぶ顔を見ることがスタッフのやりがいとなっているという。

ところで私は毎日三度の食事を摂り、夜には晩酌を嗜みながら、肝臓の数値が悪い、高脂血症、糖尿予備群と診断されて薬を常用し、運動もせずにお腹の脂肪はパンパンにふくれ、食べ過ぎで病気になるようになってしまったのである。

早朝のテレビには、健康になるというサプリメントやダイエット機器の通信販売、夜になるとグルメ番組におどらされ、人間の食欲は最も強く際限のないものである。

食べ過ぎや、食品ロスを当たり前とし、快適性を追求し、栄華栄耀の贅沢を好む私の日常は、いったい如何なものであろうか。

昨年のコロナ渦を経験し、さらに慎重と丁寧な生活を実践し、愈々智慧の念仏によつて目を覚まし、自分を深く見つめ直していかねばならないと、新年を迎えてあらためて思うものである。

ごあいさつ



真宗大谷派旭川別院 責任役員

佐 古 光 臣

新年あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。本年もよろしく願い申し上げます。

真宗門徒として新しい年を迎え、お内仏に家族そろってお参りをす。私が子供のころ我が家でも両親と兄弟姉妹そろって、元旦には、父親の調声に合わせ、浄土和讃の一首から始まる「弥陀成仏のかたは」を唱和したものです。宗門では、私たち一人ひとりの生活スタイルが変わっても、先達から受け継がれてきた間法生活を絶やすことなく子や孫に、そして有縁の方々に伝えていかななくてはと述べていますが、今は核家族で普段別々に暮らしていた親族が、正月に集まっても生活の時間帯がそろわず、以前のように子や孫にと伝えるのが困難になっていて、有縁の人々にも伝えていく仏法相続は、真宗門徒の課題です。新年早々重い話で申し訳ありません。

さてお正月の話ですが、富山県高岡市の「大島一聲」師のことば集に、【うまいものも 三日食べたら飽きてくる…遊んで暮らせれば退屈になる…まさに、私の正月です。寝て、起きて、食べて、また寝る。寝正月を続けると五日から始まる晨朝勤行に遅刻するので、四日の夜から零時には就寝し、毎朝七時からの晨朝読経が私の一日の始まりです。私事で恐縮ですが、命のある限りは娑婆を生き、生死は阿弥陀様にお任せして明日は弥陀の国の境地に、成ればと思っております。

皆様にとりまして今年も良い年でありますようご祈念申し上げます。
合掌

謹賀新年

代表役員

太田 法生

責任役員

○金倉 泰賢

新谷龍一郎

佐古 光臣

荒井 保明

常議員

○両瀬 涉

諏訪 宣雄

飛谷 和恵

生駒 雅彦

田中 祥子

○加藤 亨

塚本 信樹

脇坂 慎一

木下 雅之

熊崎 智浩

院議会議員

○相河 孔輝

○旭 正依

○桂 励

○宗隆 教信

北川 要

小澤 聡

福本 清

佐藤 英行

川合トミエ

向井 敏純

屋敷 桂子

野村 幸夫

木津 勝

○藤岡 明良

○松澤 正樹

○渡辺 仁海

○吉田 幸磨

新田 守

滝野 弘子

関口 光雄

尾田 泰一

荒木 靖人

数越百合子

武藤 満

安藤 信幸

監事

梶 勝洋

小城 公明

本年もどうぞ宜しく
お願い申し上げます。

(順不同・○印 崇敬寺院住職)

信心④



余市町
即信寺住職

亀谷 亨

これまで「本願」・「念仏」・「聴聞」ということについて尋ねてきました。最後は「信心」です。

「あの人は信心深い」とか「私は不信心です」など、信心は宗教につきものの言葉でしょう。浄土真宗においても「信心が要（かなめ）である」と言われます。しかし、一般的に言われる信心と浄土真宗における信心は、「自力の信心」と「他力の信心」という大きな質の違いがあります。今回はこのことについて考えたいと思います。

「信ずる」ということの意味を辞書には「少しの疑いも持たずに、そのことが本当であると思うこと」と記されています。また自力というのは「自分の力を頼りにする」ということですから、辞書の解説と合わせると「自力の信心」とは、自分の知識や経験を確かなものだと疑わず、それに基づいて神仏やその教えなどを評価して、「これは本物に違いない」と思う心と言うのでしょうか。

対して、「他力の信心」とは「気づき」や「目ざめ」を内容とするものです。それは、自身の中で「これは本物に違いない」と思い込んでいたことが「そうではなかった」ということに気づき、そう思い込んでいた自らの迷いの

深さと、その私を悲しみ続けている仏の心に目ざめることなのです。しかし、その「気づき」や「目ざめ」は私の中に起こりながらも、「仏」他力の「はたらき」によって開かれるもの、言い換えれば、仏の心が私の中に起こってくるものであるがゆえに、「他力の信心」と言われます。しかしこの目覚めを獲ることが、はなはだ困難なのです。それで浄土真宗の信心は「難信」といわれます。

自らの抱える闇

ではなぜ、他力の信心の獲得がそんなに困難なのでしょう。それは、宗教を求め、仏法を聴聞している心そのものが大きな問題を抱えているからだと思います。あるとき、「お母さんはお寺にお参りしていても、わがままな根性がちつとも変わらないけれど、どんな話をしているの？もつと物わかりがいい人になるような話をして欲しい」と娘さんから言われました。「そう言っているあなたに仏法を聞いて欲しいです」と返事をしました。が、これは人ごとではありません。

宗教に商売繁盛・無病息災など、現世利益を求めるのはよく批判されますが、教えを

聞いて強い心で生きられる自分になりたい、「世間から認められる間違った人になりたい」、また「不安を取り除いて安心の日々を送りたい」など、自分にとつて都合のいい安穏な日暮らしを手に入れたいという思いで聴聞している自分がそこにいるからです。実は、そういう自分中心の得手勝手な思いに立つて救いを求めていくのが自力の信心にひそむ問題なのですが、同じ心根で浄土真宗の教えに向かうところに「難信」の問題が立ちあがります。

確かに真摯に宗教に救いを求めている姿は尊いものです。悲しみにうちひしがれ、苦しさに心を折られながらも、必死で道を求めている真剣さには頭が下がります。しかし、その中になお、自分では見定めていることができない根深い迷いがうごめいているということ。南無阿弥陀仏のいわれを聴いて完成された人間となつて、心地のよい世界に到り着こうとするなら、それはやはり得手勝手な迷い心でしかないのです。その迷いに立つた期待感で仏法を求める限り、仏の心に出会うことはますます遠ざかるばかりです。

むしろ「仏法を求めることさえも自分の腹を満たすために利用してきた、自分の中に確固たる信心の城を築こうとするうぬぼれが大きな方向違いであつた」と、自らの抱える闇が徹底的に知らされ、破られ、否定される、しかしまだ、そういう抜きがたい闇を抱える自身でしかないことと知られることが、他力の信心における目ざめの内実なのです。

仏の呼び声

ある先生から、浄土真宗の信心は「なんとかしてくれ南無阿弥陀仏、ではなく、なんと

もならん南無阿弥陀仏なんだ」と教えて頂きました。自分の中に覚りを開くものなどまったくなかったという領きに立てるか否か、これが自力と他力の水際でしょう。このことをご自身の実感をもつて教えてくれる前川五郎松という方の「念仏禁止」という信心の詩をご紹介します。

うら（わたし）の仏法は念仏やめよう
うらとなえりや名聞利養
人に見せかけ世間をだまし おのれがおのれにごまかせ

うらがとなえる念仏やめて うらの心に
念仏禁止の札かけりや
知らずに始まる南無阿弥陀仏 念仏往生
さかんなり

うらの仏法は餓鬼根性 自分が仏を引きよせて うらが仏を撰取して
ご恩報謝の念仏となえ こんな念仏やめねばあかん
うらがとなえる念仏止まりや ここへと
び出る親がある
親から嘔き出す念仏は 尊い香のするものじゃ

この領きがどこで実現するかといえば、この紙面にて尋ねてまいりましたように、私たちを救わんと誓われた阿弥陀仏の本願のいわれと、その本願の心を名によって現した南無阿弥陀仏の呼び声を聞き続ける以外にはありません。他力の信心とはその仏の呼び声を聞き得ることのできた事実そのものなのです。念仏・聴聞によつて「本願を聞く耳を賜る」、それが浄土真宗の信心の成就なのです。（完）

春季彼岸会

令和三年 三月十九日～二十一日

彼岸とは、覚りの世界「浄土」という意味です。古来より日本では、春秋の太陽が真東から真西に沈むすがたを見て浄土を想うという中国からの伝統を受け継ぎ「彼岸会」という仏教行事を営んできました。本願寺第八代の蓮如上人は、春秋彼岸を「昼夜の長短なくして、暑からず寒からず（中略）仏法修行のよき節」だと述べられました。

亡き人を偲ぶ事を通して、亡き人と出遇いなおし、そして自分自身の帰すべきところを定めよと呼びかけておられます。是非ともお参り下さいませようご案内申し上げます。

日時

令和三年三月十九日～二十一日 午後一時より
三月十九日 好蔵寺住職 両瀬 渉 師
三月二十日 圓満寺前住職 山本 英丸 師
三月二十一日 正行寺住職 楠 宏生 師

法座・行事案内予定

1月

元旦 午前零時 修正会
16日 午後一時 同朋の会 列座
17日 午前11時 群萌の会 中止
18日 午前10時 カルタ木耆婦人会 中止
随時 午後3時30分 あゆみ会 中止
中止 正午12時 門徒新年会
中止 午後7時 壮年の集い 中止

2月

1日 午後7時 公開学習会
7日 午後一時 群萌の会 列座
8日 午後一時 マヤの会 列座
13日 午後一時 初心の集い 輪番・列座
16日 午後一時 同朋の会 列座
18日 午後一時 婦人会 列座
27日 午後一時 定例法座
随時 午後1時30分 あゆみ会 列座
第3土曜 午後7時 壮年の集い 列座

3月

1日 午後7時 公開学習会
7日 午後一時 群萌の会 列座
8日 午後一時 マヤの会 列座
13日 午後一時 初心の集い 輪番・列座
16日 午後一時 同朋の会 列座
18日 午後一時 婦人会 列座
19日～21日 午後一時 春季彼岸会
随時 午後1時30分 あゆみ会 列座
第3土曜 午後7時 壮年の集い 列座

※コロナ感染状況により、行事の変更もあります。ご了承下さい。

『初心のつづい』のご案内

身近な仏事と輪番連続講話 一年間・八回
昨年の四月より輪番のお話を中心に開講しています。本年は四月より開講予定です。初めてお寺にかかわりを持たれる方、是非お待ちしております。

記

日時

毎月十三日
四月・五月・七月・九月・十月・十二月・二月・三月
午後一時～三時（六月・八月・十一月・一月はお休み）

場所

旭川別院本堂（冬期は一階広間になる場合あり）
お勤めの練習・お内仏のお給仕・お釈迦様、親鸞様の教え等・後、輪番法話

持ち物

念珠・勤行本（貸し出し可）
会員制ではありませんのでどなたでも参加下さい。（会費無料）
※継続される方も大歓迎です。

※参加申し込みは、後日別紙にてご案内いたします。



仏法 これあれ

ブーツと生きてん
じゃねーよ!

「大人になると、あつという間に一年が過ぎるのは、人生のトキメキがなくなったからー!」と、もうこんな時期か、もう令和三年か...と、時を感じる早さに焦っているそんな時に、某国民的人気番組に登場する、おかっぱ頭にピンクのワンピースを着た五歳の女の子

が叱ってくれました。「トキメキ」とは、ドキドキ・ワクワクといった胸が躍るという意味があり、時間の感じ方については、心がどのくらい動いているか、どれだけトキメキを感じているかの差であるで紹介されていました。(諸説あり)二人の子供と食事を共にしていると、一口ひとくち五感を働かせながら、いろんな反応や表情を見せてくれます。子供にとっては、驚きや感動などといったあらゆる発見がありますが、一度味を占めてしまっている私にとっては、単なる「食事をした」という記憶に過ぎません。この食べ物甘い!酸っぱい!と反応もありません、ただお腹を満たすだけの時間を過ごしているのですから、三日前に何を食べたか思い出せないのも無理もないでしょう。

『蓮如上人御一代記聞書』という書物で「おどろかす かいこそなけれ 村雀 耳なれぬれば 鳴子にぞのる」と、本願寺第八代蓮如上人が引用された和歌があります。たわなに実った稲穂を啄みにくる雀を追い払おうと設置された鳴子に、初めこそ驚いて逃げた雀も、繰り返して聞き慣れてくると、終には鳴子に乗って遊ぶ光景を詠ったものです。慣れは恐ろしいですね。トキメキを失い、こんなもんか...とすっかり止まり木として、がっちり掴んでいる私の姿のように見えます。そんな私に子供たちは、身の回りにはたくさんトキメキで溢れているんだよ!ということを、ゆつくりとした時間の中で教えてくれます。ブーツと当たり前のように過ごしていません。一秒一秒じっくりと味わい頂いていきたいものです。



(横井 光)

門徒新年会中止のお知らせ

毎年年初に開催を予定しておりました別院門徒新年会ですが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、本年はやむなく中止させていただきます。



お寺クイズ

「お寺クイズ」を実施しております!「納骨堂」「本堂」「本堂までの廊下」にクイズの答えが隠されています。納骨堂一階ホールに解答用紙がありますので、記入出来たら、事務所までお越しください。素敵な品もご用意しております。お参りの際に、ぜひご参加ください。



別院子ども会

この度、旭川別院子ども会をできる限りの換気、消毒、マスク着用の上、開催いたしました。少人数ではありますが、子どもたちの元気いっぱいの声は、この大変な空気を一掃してくれる、そのような感じがしました。いつまた再開できるか目処がたちませんが、またご連絡させていただきます。



報恩講報告

昨年の報恩講は新型コロナウイルスの感染防止の観点から、内々のみで執り行うことになりました。毎年恒例のお齋等も中止し、少々寂しい報恩講となりましたが、本年は元の姿に戻りお勤めしていきたいと考えています。宜しくお願い致します。



親鸞誕生会

去年より始まった親鸞誕生会ですが、残念ながら今年度はコロナウイルス感染拡大の為、中止となりました。しかし、親鸞誕生会の催しの一つとして「書道展」「浄土川柳」「写真宗展」の募集をしたところ、たくさんのご応募をいただきました。今年度中は納骨堂入り口に展示してありますので、是非見に来てください。来年度は、開催予定ですが日時は未定となっています。



幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園



大きな雪だるまが出来ました！



太陽、気持ちいい～

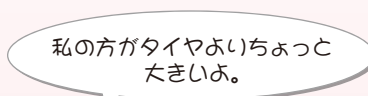


自然に触れ、季節を感じる

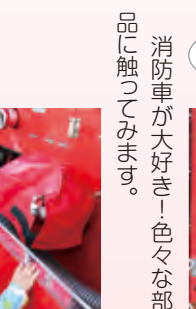
初雪の日、小さい組の子どもたちは、室内で雪の感触を確かめました。



雨の日、半紙を持って外へ。不思議な模様を発見！その日のお昼に、テーブルを廊下に配置して、雨の日レストランで食事をしました。



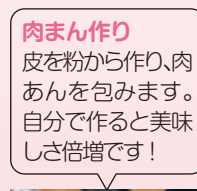
私の方がタイヤよりちょっと大きいよ。



これ、な～に？

消防車見学

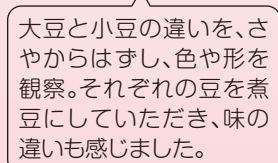
9月の避難訓練の日に、本物の消防車が来てくれました。



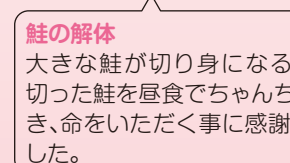
肉まん作り
皮を粉から作り、肉あんを包みます。自分で作ると美味しさ倍増です！



食育



大豆と小豆の違いを、さやからはずし、色や形を観察。それぞれの豆を煮豆にいただき、味の違いも感じました。



鮭の解体

大きな鮭が切り身になる様子を見ました。切った鮭を昼食でちゃんちゃん焼きでいただき、命をいただく事に感謝の気持ちを持ちました。



報恩講

供灯・供華では、ちよっぴり緊張した様子でした。お参りをし、お話を聞き、改めてありがとうございますの気持ちを大切さを感じました。



当麻町の「くるみなの木遊館」と「くるみなの庭」に、園バスで冒険ツアーに行きました！木遊館では、様々な木の玩具で遊び、くるみなの庭では、蝶やトンボを採ったり、森の道を探検しました。思い出に残る大切な一日になりました。



わくわく冒険旅行(年長きりん組)

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

雪が降り、季節は秋から冬へと移り変わりました。幼稚園の子ども達は、毎日の外遊びの中で季節を肌で感じ、様々な表現を楽しんでいます。十一月二日には、真宗保育の大切な行事であります『幼稚園報恩講』に、年長きりん組が参拝しました。
コロナウイルス感染症予防のため、日々の生活が変化していますが、私達は出来る限りの事を行い、子ども達に楽しく充実した園生活を送ってもらいたいと願いながら日々を過ごしております。

ご門徒の声

我が家のお宝

門徒 梶 勝洋

我が家の仏間鴨居に、真宗大谷派（東本願寺）第二十五代大谷暢頭門主ご夫妻の集合写真二枚が額縁に入れて飾っています。

この写真を撮影したのは、平成二十二年六月のお待ち受け大会、同二十六年六月の親鸞聖人七五〇回御遠忌法要でご夫妻が旭川別院に来院した時のものであります。

以前、私は寺や仏教について関心が無く、単に「南無阿弥陀仏」しか知らない人間でした。そんな者がなぜ東本願寺のご門主と写真を撮ることが出来たのか？それは言うまでもなく旭川別院との拘わりを持つこととなったからであります。

平成十九年の七月のことですが、突然、母が急性心筋梗塞で倒れ、この世を去りお浄土へと向かうこととなった。その際の儀式をお願いしたのが別院でありました。普通はこれで一旦、別院との関わりは終わるのですが、そうは問屋は卸さなく、私を仏教の世界へと導いた一人の僧侶（福田先生）がいたのです。しかし、当時、なぜ私を強力に仏門の世界へと誘い入れたのかは今も不明であり、現在は壮年の集い、別院役員報恩講のお世話方等を行行の身となつていますが、この流れを作ってくれたのは母であり、その上、ご門首の両隣りで写真を撮らせてくれたものです。

我が家のお宝、額縁の裏には写真の経緯を書き、これを孫に引継ぎ思っております。

(合掌)

うどんダ

この原稿を書いている時、北海道もコロナの第三波がやって来ています。新聞を配布する一月にはどうなっているのか心配です。

さて、このコロナを仏教・真宗ではどう見て、どう応えるのかという事を思っています。そこには、事実を事実として見ていく。自己を見失わない。如来・聖人の呼びかけに帰る。物事の本質を念仏によって見つめていく等と挙げられます。

ではなぜ、その必要があるのかというと、差別と偏見と独断によって、憤ったり、誰かのせいにして、他者との関係を断絶していくからであると言われます。しかし、その事は言葉にはできませんが、私自身、実践していきたくは非常に難しいものがあります。

そんな中、ある先生はコロナを通して、浮き彫りとなった人間の課題に「役に立つか立たないか、評価されるかされないか」という視点でのみ物事を見ていく、人間そのものを問うのが仏教でしょう」と述べられていました。

仏教は世の諸問題に答えられるというより、人間そのものを明らかにし、そこで閉ざされていく世界を開いていくものであるとあらためて気付かされました。

仏教でコロナが無くなることも、病気が治ることも、死者が出なくなることもありません。直面する諸問題で見失っていく、人間(自分)という存在そのものを問うてくるのが仏教ではないでしょうか。

(北田)

真宗大谷派 旭川別院

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいたご葬儀です。どうぞご利用下さい。



大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされた方は是非ご利用ください。



使用料 (葬儀・会場費込)

- 各広間……………100,000円(税込)
- 大谷ホール……………150,000円(税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409